6 BizXaaS Office®

多様な働き方を実現し、セキュリティや生産性を向上、従業員EXに寄与するデジタルワークスペース「BizXaaS Office®」

コロナ禍により、ワークスタイルは大きく変化した。本稿では、ニューノーマルに対応したセキュリティや生産性向上を目指す理想のデジタルワークスペースの在り方及び株式会社NTTデータ（以下、NTTデータ）のオファリングである「BizXaaS Office（ビズエクサースオフィス）」について紹介する。

テレワークの課題にリアルとデジタルのハイブリッドでアプローチ

変化の激しい環境への適応能力、弾力性、回復能力を意味する「レジリエンス」。レジリエンスは、事業継続のみならず事業創造も踏まえた独創性のある経営理念を指す。新型コロナ収束後も“元の世界”には戻らないことを前提にレジリエンスの観点を企業経営のサイクルに盛り込むことが重要だ。

内閣府の調査※1によると、新型コロナ流行以降、テレワーク実施企業の割合は「急増」から「微増」へと遷移。現在テレワーク実施企業の中でも「出勤中心」「基本的に出勤」の割合が増加し、今後働き方のデファクトスタンダードは「ハイブリッドワーク」になるだろうと予測されている。

こうした背景の下、NTTデータはテレワークが浸透する中で顕在化した課題は、①コミュニケーション、②セキュリティ、③設備・整備、の３つに収斂されるとしたうえで、これらの課題に対してもリアルとデジタルのハイブリッドでアプローチするべきだと考えている。つまり、ニューノーマルの働き方としては、リアルからデジタルへの完全移行ではなく両者の長所を活かす理想的な形を考える必要がある（図１）。

新しい働き方を支える「デジタルワークスペース」

NTTデータは、堅牢なセキュリティに守られ、柔軟かつ自由な働き方を可能にし、利便性の高いクラウドサービスを使いこなすことができる企業の生産性と利用者のQOL（Quality of life: 生活の質）を継続して向上させる新しい働く環境を「デジタルワークスペース」と呼称し、それこそがニューノーマルの働き方を支えるとしている。時間・場所・デバイスを問わず、実情に応じてオンプレ／SaaSを選択し、クラウドの不正利用防止等が厳重に確保されることで、働く人のアジリティやプロダクティビティやケイパビリティそしてエンゲージメントが高まるという考え方だ。

株式会社NTTデータ
コンサルティング＆ソリューション事業本部
デジタルビジネスソリューション事業部
統括部長　遠藤 由則氏

図１　リアルとデジタルを融合する「ハイブリッドワーク」

次世代ネットワークセキュリティ「ゼロトラストネットワーク」の取り入れ方

そもそも社内 NW だけを使用していれば、社外との境界はファイアウォールや VPN 、プロキシサーバなどで仕切られているので、社内ネットワークは仮想デスクトップでも安全であったわけだが、テレワークが浸透した昨今では、ネットワークの境界が曖昧になりこれまで通りセキュリティを担保することが難しくなってきた。そのためデジタルワークスペースを構築する最適なセキュリティとして、アクセスの都度、ネットワーク／デバイス／ロケーションなどを検証し安全性が確認されたものだけにアクセスを許可するゼロトラストネットワークへの関心が非常に高まっている。

こうした状況を受けて遠藤氏は次のように述べる。「セキュリティの課題に対しては、一足飛びにゼロトラストネットワークに移行する必要はなく、お客様の環境に応じバランスをとりながら段階を踏んでソリューションを取り入れることが大切だと考えています。私たちはお客様のニーズに最適なゼロトラストネットワークの取り入れ方について、一部機能補完からフル導入まで様々なタイプをご提案します。」

例えば、従来のオンプレミス環境の社内システムへのアクセスに加え、業務利用が拡大しているクラウド利用時のセキュリティ対策が目的であればステップ１としてクラウド利用の可視化と制御、オンプレとの認証統合、エンドポイントの一元管理。続いてクラウドシフトが進み、大半の業務がクラウド上で実行可能になれば、快適なクラウド利用やエンドポイント保護、散在するデータの一元管理を目的にステップ２へ、さらにステップ３と徐々にゼロトラストネットワークと一部仮想デスクトップを併用するという進め方だ。

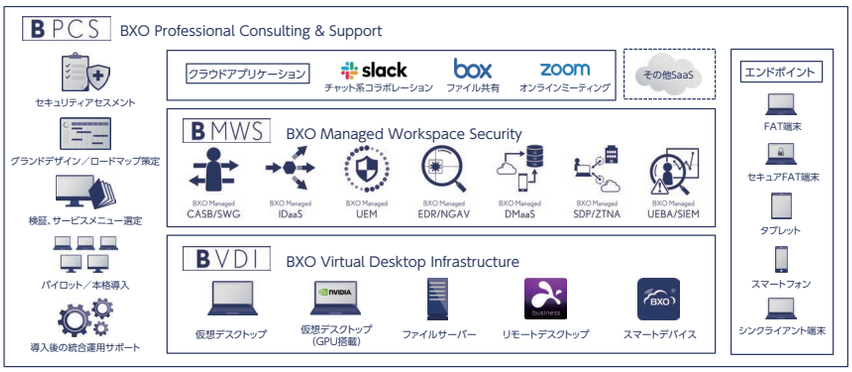

図２　BizXaaS Office のラインナップ

実際、NTT データにおいても現在約３万人が仮想デスクトップ、約１万人がゼロトラストネットワークの考え方に基づいたセキュリティの仕組みを使用している。前述のとおりやがてデジタルワークスペースにとって最適なゼロトラストネットワークを軸に移管する予定ではあるが、NTT データ自身が経験してきたストラグルを活かし、お客様に最適な提案をしたいと遠藤氏は強調する。

因みに、ゼロトラストネットワークを構成する要素は、デバイス管理／ネットワーク環境の再構成／ ID 基盤整備など幾つかの要素があり、そのどこからでも着手が可能だ。

解決策としてのオファリング BizXaaS Office

BizXaaS Office（以下、BXO）は主に仮想デスクトップを中心とする BVDI、ゼロトラストネットワーク BMWS、導入・製品選定・運用・監視サービス支援 BPCS で構成されている。

◆BVDI（BXO Virtual Desktop Infrastructure）

仮想デスクトップサービスのラインナップ。お客様の要望に柔軟に対応できるよう複数のサーバータイプと接続・展開方式を提供。

◆BMWS（BXO Managed Workspace Security）

ゼロトラストネットワークを構築するために必要な7つのソリューションをラインナップ。NIST SP800-207 ※2 が定義するゼロトラストを網羅。

◆BPCS（BXO Professional Consulting & Support）

BVDI や BMWS を導入する際の選定・設計、チューニング、サービス開始後のマネージドまでを一元的に行うプロッフェショナルサービス。

「実際お客様からは『ニューノーマルのセキュリティとして自社に何をどう取り入れたらよいのかわからない』というご意見をいただきます。コンサルティングフェーズからしっかりとサポートさせていただける点が BXO の強みですので、レジリエンスを踏まえたデジタルワークスペースづくりをサポートさせていただきたいと思います」（遠藤氏）。

※１　内閣府・新型コロナウイルス感染症の影響下における 生活意識・行動の変化に関する調査（インターネット調査 回収数 10,128 2021 年６月４日）

※２　NIST（米国標準技術研究所）が公開している「SP800-207：Zero Trust Architec- ture（ZTA）」